

【様式】第2号の1～4—①

大学・短期大学・高等専門学校

(注) 様式第2号の1—①

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1—②を用いること。

(注) 様式第2号の2—①

※国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2—②を用いること。

(注) 様式第2号の4—①

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4—②を用いること。

(申請書を作成する際には、1頁目を削除すること)

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	神戸松蔭女子学院大学
設置者名	学校法人 松蔭女子学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文学部	英語学科	夜・通信	28	0	0	28	13	
	日本語日本文化学科	夜・通信	28	0	0	28	13	
人間科学部	心理学科	夜・通信	28	0	0	28	13	
	都市生活学科	夜・通信	24	0	4	28	13	
	食物栄養学科	夜・通信	28	0	0	28	13	
	ファッション・ハウジングデザイン学科	夜・通信	28	0	0	28	13	
教育学部	教育学科	夜・通信	28	0	0	28	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<ul style="list-style-type: none"> 「実務経験のある教員等による授業科目一覧」を大学ホームページに掲載し、公表している。 https://ksw.shoin.ac.jp/kyoumu/kyoumu-info/2024jitsumu.pdf 該当する授業科目の個々のシラバスにも記載し、大学ホームページ上で公開している。 https://ksw.shoin.ac.jp/kyoumu/kyoumu-info/2024syllabus_u/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由) 特になし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	神戸松蔭女子学院大学
設置者名	学校法人 松蔭女子学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

理事（役員）名簿を大学ホームページに掲載し公表している。
https://www.shoin.ac.jp/guide/financial/pdf/2024r_k.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	宗教法人日本聖公会主教	2024年4月～ 2028年3月	理事長
非常勤	会社役員	2024年4月～ 2028年3月	学校法人の経営全般
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	神戸松蔭女子学院大学
設置者名	学校法人 松蔭女子学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本学の教育課程では、教育の質保証と質向上のために、シラバスの充実に努めている。単位の実質化に伴う授業外学修の促進、厳格な成績評価のためのルーブリックの作成、ディプロマポリシーに基づき学修成果の可視化を行うための取り組みなどについて、シラバスを基本とし、記載内容の一層の充実に図っている。</p> <p>本学では、「シラバス作成の手引き」に重点取り組み項目を示し、科目担当者に項目ごとの注意点を踏まえてシラバスを作成するよう要請している。シラバスには、ディプロマポリシー、或いは教育目標に基づく科目の位置づけをカリキュラムマップで確認し、そのマップにおける位置づけに基づいて到達目標を設定し、その到達度を測るものとして成績評価と評価基準、能動的な学修姿勢を育成するための授業外学習の取組みなどを明記している。</p> <p>科目担当者が作成したシラバスは、重点取り組み項目ごとに学科・教育センターにおいて複数人で確認を行い、学科長、学部長・教育センター所長の順で最終確認を行う体制としている。</p> <p>学生には、3月22日頃に新年度のシラバスを公開し、在学生ガイダンス(履修ガイダンス)までにシラバスを確認したうえで、履修科目を決定し、履修登録の準備を行うよう指導している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>授業計画は、個々のシラバスに記載し、大学ホームページ上で公開している。</p> <p>https://ksw.shoin.ac.jp/kyoumu/kyoumu-info/2024syllabus/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の授業出欠に関して、3回連続で欠席した場合には、他科目の出席状況を含め教職員間で情報を共有して、学習意欲の低下者等の早期の発見と支援ができるようクラス担任制で指導を行っている。 ・ 単位認定に当たっては、シラバスに成績評価方法、評価基準を明記し、期末試験のみで評価をせず、授業のリアクションペーパー、小テスト、発表、レポートなどを含めた総合的な評価を行っている。 ・ 科目ごとに成績評価点の成績分布一覧を作成し、成績評価の適切性、公平性を点検している。 ・ 同一の科目で担当者が複数いる場合は、すべての担当教員が統一の認識のもとに成績評価、単位認定を行うようにしている。それぞれの担当者の成績評価基準に大きな差異が出ないようにしている。 <p>卒業論文及び卒業研究は、各学科において分量や様式等についての基準を設けている。また、成績評価にはルーブリックを活用し、適正かつ公平な評価の実現を図っている。卒業論文(又は作品)の提出後には、学内公開の発表会の実施や、要旨集を作成している。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、学修の状況及び成果を示す指標として GPA 制度を導入している。本学は、1点の差が GPA に正確に反映される functional Grade Point Average を採用しており、GPA の算出方法は、次のとおりである。</p> <p>GPA = (GP×単位数) の総和 ÷ 単位数の総和</p> <p>この GPA は、客観的な成績指標の 1 つとして、学期ごとにクラス担任、指導教員による就学指導に利用している。学期ごとの修得単位が 10 単位未満、かつ累積 GPA が 1.0 未満の学生については、学修意欲の確認、履修計画の作成等、担任による指導を行っている。在学期間 3 年及び 4 年経過後に所定の修得単位、所定の GPA を満たしていない場合は、退学勧告を含めた進路指導を行っている。具体的には、4 年の在学期間終了時点で修得単位が 64 単位未満、かつ累積 GPA が 1.0 未満の者については、退学を勧告している。4 年次生については、在学期間終了時点で修得単位が 64 単位未満、かつ累積 GPA が 0.8 未満の者については退学を勧告している。</p> <p>GPA による履修登録単位数の上限 (CAP) の引上げ及び引下げについても、年度末の累積 GPA が 3.0 以上の場合、翌年度の履修登録単位数の上限を 4 単位相当引き上げ、年度末の累積 GPA が 1.0 未満の場合、翌年度の履修登録単位数の上限を 4 単位相当引き下げることを「GPA 制度の関する規程」及び「履修規程」に定め、適切に運用している。</p> <p>年度末時点の累積 GPA データは、大学全体、学部ごと、学科ごとの成績分布状況を把握するために活用し、その状況は、学生は在学生用ポータルサイトに、教職員は学内サイト (学内専用) で公表している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>在学生には、GPA 算出の方法などを例示した詳細な説明を『履修ガイド』に掲載し、年度始めのガイダンスで配布している。GPA 分布図は、在学生用ポータルサイトに掲載。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学ホームページに以下の情報を掲出し公表している。 <p>履修規程： https://www.shoin.ac.jp/academics/pdf/risyukitei.pdf</p> <p>GPA 制度に関する規程： https://www.shoin.ac.jp/academics/pdf/GPA_rules.pdf</p> <p>成績分布図：公開情報に掲載 (学内 PC のみ閲覧可) https://www.shoin.ac.jp/guide/publication.html</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学位授与の方針を策定し、本学のホームページに公表している。また、履修ガイド、学生便覧にも記載している。履修ガイドは、新入生オリエンテーション及び在学生ガイダンスで配付し周知を図っている。</p> <p>各学部及び各学科の学位授与の方針は、カリキュラムマップによりカリキュラムに反映しており、授業科目の到達目標の設定の指標とすることにより、成績評価、単位認定の基準となっている。</p> <p>本学に 4 年以上在学し、所定の授業科目を履修し、124 単位以上を修得した学生については、教授会で卒業を認定し、学位を授与することとしている。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>卒業の認定に関する方針等は、『学生便覧』所載の学則に記載している。また、大学ホームページにも pdf 版を掲出し公表している。</p> <p>https://www.shoin.ac.jp/guide/outline/pdf/regulations2024.pdf</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	神戸松蔭女子学院大学
設置者名	学校法人 松蔭女子学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.shoin.ac.jp/guide/financial/financial_info.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.shoin.ac.jp/guide/financial/financial_info.html
財産目録	https://www.shoin.ac.jp/guide/financial/financial_info.html
事業報告書	https://www.shoin.ac.jp/guide/financial/financial_report.html
監事による監査報告(書)	https://www.shoin.ac.jp/guide/financial/financial_info.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:事業計画書	対象年度:2024年度)
公表方法: https://www.shoin.ac.jp/guide/financial/pdf/2024jigyoku_keikaku.pdf	
中長期計画(名称:中期計画	対象年度:2023年度~2027年度)
公表方法: https://www.shoin.ac.jp/guide/financial/pdf/mid-plan.pdf	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:<https://www.shoin.ac.jp/guide/outline/check.html>

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:<https://www.shoin.ac.jp/guide/outline/evaluation.html>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部 英語学科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.shoin.ac.jp/guide/pdf/study_purpose_u2024.pdf) (概要) 本学の建学の精神であるキリスト教の愛の精神と人文系の学問の教育によって、個人の健全な人格形成を促すとともに、卒業後は、自己実現から発展して、現代社会の課題に積極的に向き合い、その発展に貢献し得る知見と能力を持った人材の育成を目的とする。 英語を学ぶことによって柔軟な国際性を身につけ、個性豊かに創造性を発揮して、自分自身を高めるとともに、さまざまな形で社会に貢献する人材の育成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/e.html) (概要) 英語学科では、自らの卒業後の進路に関して明確なビジョンをもつ学生を育てることを目標とする。英語を学ぶことによって柔軟な国際性を身につけ、個性豊かに創造性を発揮して、自分自身を高めるとともに、さまざまな形で社会に貢献する人材を育成することを目標とする。そのために、卒業時までには次の能力を養成した上で学士の学位を授与する方針である。 1. 知識・理解 (1) 英語圏の言語、文化、社会についての専門的な知識を身につけ、異文化を十分に理解できる。 (2) 自らの進路に合わせた専門分野において、英語とその周辺的环境についてより深く考察し、分析する力を身につけている。 (3) 東アジア地域を含む、多様な文化と言語が理解できる。 2. 汎用的技能 (1) リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能の基礎的能力を身につけ、国際社会で通用する英語運用能力をもつ。 (2) 情報を的確に判断・理解し、適切に処理する技能を身につけている。 (3) 広い視野に基づいた冷静かつ客観的な判断力を背景として、高度なコミュニケーション能力を用いた、説得力のある情報発信ができる。 3. 態度・志向性 (1) 社会における自己の位置を確立できる能力をもつ。 (2) 大学生活を通じて、自らの個性と創造性を最大限に発揮できる場を考察し、それを卒業後の進路として実現する実行力を備えている。 (3) 世界のできごとに幅広い関心をもち視野を広める。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/e.html) (概要) 英語学科の教育は、学ぶ英語の性質の違いによって英語プロフェッショナル専修とグローバルコミュニケーション専修に分かれ、「Essential Study Skills」によって築かれた土台を基礎に、英語プロフェッショナル専修は Semester 留学、「Research Seminar」、「卒業研究」へと続き、グローバルコミュニケーション専修は、「国際プロジェクト演習」、「卒業研究」と続くといった形で、系統的に編成された専門教育科目によって行う。これらの教育課程編成・実施の方針は次のとおりである。 1. 1年次の「Essential Study Skills」により、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法など、学びの土台となる基礎知識および学習技能を養成する。 2. 英語プロフェッショナル専修では、英語の運用能力を徹底的に高め、外資系企業、あ

<p>るいは国際機関で働くことのできる人材を育成する。また、2年次の後期には、セメスター留学を必修とし、英語圏の大学で学ぶ。</p> <p>3. グローバルコミュニケーション専修では、プロジェクト型学習を中心として、英語・中国語・韓国語を含む語学力と異文化に対する理解を深め、国内企業の海外部門での仕事をするのに十分な英語力と異文化間コミュニケーション力を育成する。</p> <p>4. ネイティブ・スピーカー教員によるリスニング、スピーキング、ライティングの授業と、日本人教員によるリーディングおよび文法の授業によって、英語の4技能をバランスよく習得できるようにする。また、1、2年次の必修科目の多くは、習熟度別クラスにより、少人数編成とする。</p> <p>5. 3年次の演習、4年次の卒業研究において、少人数できめ細かな指導を通じて、専門性を身につける。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/e.html)</p>
<p>(概要) 英語学科に入学する学生には、次の資質をもっていることを期待する。</p> <p>1. 知識・技能 母語および英語のコミュニケーションにおいて、情報を的確に理解・判断し、正確でかつ説得力のある形で発信できる基礎的な言語能力をもつこと。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力 母語および英語、また自国の文化と英語圏の文化を学ぶことを通じて、人間の言語・文化・歴史の成り立ちを探究することに興味を持ち、そのための知識の習得、課題解決に意欲をもつこと。</p> <p>3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 人間関係におけることばの力に関心を持ち、その力を駆使した他者との協働により社会に積極的に貢献していこうとする強い意欲をもつこと。</p>

<p>学部等名 文学部 日本語日本文化学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/pdf/study_purpose_u2024.pdf)</p>
<p>(概要) 本学の建学の精神であるキリスト教の愛の精神と人文系の学問の教育によって、個人の健全な人格形成を促すとともに、卒業後は、自己実現から発展して、現代社会の課題に積極的に向き合い、その発展に貢献し得る知見と能力を持った人材の育成を目的とする。 日本語・日本文化についての深く豊かな教養のうえに、現代日本社会における言語現象・文化現象を的確に分析する能力を身につけ、自らの考えを適切に表現し、主体的に発信できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/j.html)</p>
<p>(概要) 日本語日本文化学科は、明確な目的意識をもって積極的に学習研究に励もうとする学生を育てる。日本語および日本文化全般について、生涯にわたる教養と知識およびスキルを身につけ、様々なメディアや芸術活動をとおして、自らの考えを適切に表現し、主体的に発信できる学生を育てることを目標とする。また、社会を動かす力をもつメディアについて学び、現代日本社会で展開する文化現象を的確に分析する能力と、コミュニケーション・デザインを通して現代社会の課題を解決する能力をもった学生の育成も目的とする。そのために、卒業時までには次の能力を養成した上で学士の学位を授与する方針である。</p> <p>1. 知識・理解</p> <p>(1) 地域語を含む現代日本語を歴史的・社会言語学的視点から学ぶとともに、第二言語教育などを通じて、多様な媒体によるコミュニケーションの諸相に触れることで、深い知識を身につけ、異文化・多文化の存在と価値を十分に理解している。</p> <p>(2) 日本文化の長い伝統と歴史の流れを学び、先人の残した文学、美術工芸、書、古典</p>

<p>芸能などの文化遺産、ならびに近現代の小説、詩歌、演劇、映画、サブカルチャー、ジャーナリズム、広告などの諸相について、その文化的意味、現代的な意義を享受、理解し、次世代へ継承する幅広い知識と表現力を身につけている。</p> <p>2. 汎用的技能</p> <p>(1) 日本語、日本文化、および、芸術各方面の所産について、説得力のある形で主体的に発信できる高度なコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>(2) 現代社会の多様な局面において、情報を的確に受容・判断・理解し、論理的な思考を展開する力とスキルを身につけている。</p> <p>(3) 広い視野に基づいた客観的な判断力を背景として、他者と協働し、問題を解決していく実践的スキルを修得している。</p> <p>3. 態度・志向性</p> <p>(1) 多様な価値観の並存する社会において、国内外で自立した個人として、豊かな感受性をもって、生涯にわたって学び続けようとする姿勢をもつ。</p> <p>(2) 積極的かつ柔軟に行動することで、社会における自己の役割を見出し、現代社会の課題を解決する力をもつ。</p>

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/j.html)</p>

<p>(概要)</p> <p>日本語日本文化学科の教育課程編成・実施の方針は次のとおりである。</p> <p>1. 1年次の「基礎演習」により、大学での学びの土台となる基礎知識および学習スキルを身につけ、専門教育への基礎を固める。</p> <p>2. 1年次の「日本語・日本語教育入門」「日本文学・文化入門」「メディア・文芸入門」により、日本語および日本文化全般についての学問的基礎を自らのものとし、2年次に選択する専門教育に備える。</p> <p>3. 2年次の「プレゼンテーションの方法」「正しいことばづかい」により、日本語の運用能力を高め、高度なコミュニケーション能力を養成する。</p> <p>4. 2年次以降に用意された選択科目により、応用力を高め、3年次の演習、4年次の卒業研究を中心とした科目によって、課題発見、課題解決の過程を通じた思考力、判断力、表現力の養成を図る。</p>
--

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/j.html)</p>

<p>(概要)</p> <p>日本語日本文化学科に入学する学生には、次の資質をもっていることを期待する。</p> <p>1. 知識・技能 情報を的確に理解・判断し、正確でかつ説得力のある形で発信できる基礎的な言語能力を、特に日本語についてもつこと。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力 日本語・日本文化（文化・メディア・演劇・書）全般に対して関心があり、そのための知識の習得、課題解決に粘り強く取り組む意欲をもつこと。</p> <p>3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 人間関係におけることばの力、コミュニケーションに関心をもち、その力を駆使して社会に積極的に貢献していこうとする志をもつこと。</p>
--

<p>学部等名 人間科学部 心理学科</p>

<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/pdf/study_purpose_u2024.pdf)</p>
--

<p>(概要)</p> <p>本学の建学の精神であるキリスト教の愛の精神と人間諸科学を基本とした教育を通じて、他者への思いやりの心を持って社会へ貢献することができる人材を育成すること、および社会科学、自然科学という複合的な視点から、「人間とは何か」、「よりよく生きるためにはどうすべきか」を探求し、よりよい方策を提案し、「健康で人間らしく質の高い</p>

<p>生活」の実現と継承に資する人材の育成を目的とする。</p> <p>人の心と行動を調査・分析する実証的な研究方法に加え、さまざまな実習等を通して心の問題解決に必要な知識と技術を身につけ、問題解決の方策を社会に提案できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/p.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>心理学科では、人の心と行動を調査・分析する実証的な研究方法に加え、さまざまな実習等を通して心の問題解決に必要な知識と技術を身につけ、問題解決の方策を社会に提案できる人材の育成を目標としている。そのために、卒業時までには次の能力を養成した上で学士の学位を授与する方針である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 心の働きや心の健康に関する幅広い知識を身につけている。 (2) 人の行動や心の状態を把握するための適切な方法について理解している。 2. 汎用的技能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 人の行動や心の状態を、適切な方法で把握し、分析することができる。 (2) 心に関する現象について、適切な言葉を用いて表現・発信ができる。 (3) カウンセリング技法やアセスメント技法など対人援助に関わる技法を身につけ、対人コミュニケーションにおいて応用することができる。 3. 態度・志向性 <ol style="list-style-type: none"> (1) 自分自身に向き合い、深い自己理解を得ようとする。 (2) 他者に関心を持ち、その心理状態について十分な配慮をしながら、深く理解しようとする。 (3) 心の問題の解決や改善のための方策を提案し、社会に貢献しようとする。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/p.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>心理学科では、「基礎演習」によって習得された基盤の上に、4つの科目群と少人数の演習科目群「ゼミナール(ゼミ)」を、学年進行に合わせながら学べるようにカリキュラムを編成している。これらの教育課程編成・実施の方針は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1年次ゼミである「基礎演習」により、資料の探し方やレポートの書き方といった大学での学習技能、心理学調査の基本を習得する。 2. 「心理学の基礎理論」科目群では、多彩な心理学各分野の基礎を身につける。 3. 「心理現象の把握」科目群では、心理学における実証的な研究方法を実習も交えながら習得する。 4. 「対人援助の心理学」科目群では、自己や他者の心の健康の維持・向上のための知識や方法を学ぶ。 5. 「現代社会と心理学」科目群では、現代社会における日常的な人間関係と現代社会にあらわれる臨床心理学・社会心理学的な問題を学ぶ。 6. 4年間の学びの集大成である卒業論文の作成に向けて、3年次ゼミの「心理学研究法」で研究テーマへの関心と学習技法を深め、4年次ゼミの「卒業研究」において卒業論文としてまとめる。 7. 選択科目として、卒業後の進路に関する科目である「心理の仕事」や、大学院進学に必要な語学力と専門的知識育成のための「英語で読む心理学」「心理学上級演習」を通して、進路選択や大学院進学に必要な知識と能力を身につける。 8. 公認心理師受験資格の取得を目指す者は、上記2～6、および選択科目に配置されている公認心理師関連科目の履修を通して、公認心理師となるために必要な基礎的な知識と態度を身につける。
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/p.html)</p>

<p>(概要)</p> <p>心理学科へ入学する学生には、次の資質をもっていることを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・技能 自己や他者の心の働き、心の問題の解決に関心をもち、主体的に学んでいくための基礎的な知識をもつこと。 2. 思考力・判断力・表現力 自ら課題を見出し、柔軟な思考力・判断力をもってその解決を目指し、自らの考えを他者に伝える表現力を身につけようとする意欲をもつこと。 3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 他者と積極的に関わり、協働して社会に貢献しようとする高い目的意識をもつこと。

学部等名 人間科学部 都市生活学科

<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/pdf/study_purpose_u2024.pdf)</p>

<p>(概要)</p> <p>本学の建学の精神であるキリスト教の愛の精神と人間諸科学を基本とした教育を通じて、他者への思いやりの心を持って社会へ貢献することができる人材を育成すること、および社会科学、自然科学という複合的な視点から、「人間とは何か」、「よりよく生きるためにはどうすべきか」を探求し、よりよい方策を提案し、「健康で人間らしく質の高い生活」の実現と継承に資する人材の育成を目的とする。</p> <p>都市化された社会における生活をさまざまな視点から研究することにより、人間らしい質の高い生活を創造・提案できる人材の育成を目的とする。</p>
--

<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/u.html)</p>
--

<p>都市生活学科では、社会における生活を様々な領域の視点から研究することにより、人間らしい質の高い生活を創造・提案し、地域に貢献できる人材を養成する。具体的には、下記の能力を育成した上で学士（人間科学）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 生活に関する基本的な知識を身につけている。 (2) 生活の質の向上という視点から、よりよい生活のあり方を理解することができる。 2. 汎用的技能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 生活を取り巻く環境について実験や調査の手法、情報ツールを用いて学際的に分析し、情報発信することができる。 (2) 社会が直面している問題の解決策を提案することができる。 3. 態度・志向性 <ol style="list-style-type: none"> (1) 自立した個人として生涯にわたって質の高い生活を創造し、営み続けようとする姿勢をもつ。 (2) 他者と協働しながら、持続可能な社会を実現する専門家として地域のために貢献する。

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/u.html)</p>
--

<p>(概要)</p> <p>都市生活学科の教育課程・実施の方針は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生が生活に関する広い意識を持ち、社会問題に気づくことができるように、学科基礎科目を必修として1年次から「生活学概論」「生活の科学基礎Ⅰ・Ⅱ」、「生活行動論」、「都市生活論」などを学び、基礎的知識を身につける。 2. 1年次の「基礎演習A・B」、2年次の「都市生活プロジェクト演習A・B」では課題解決に必要な専門的スキルを修得し、3年次の「都市生活演習A・B」や4年次の「卒業研究」で課題解決に向けて実践できる力を養う。 3. 選択科目では、学生が社会問題を解決するために必要となる学際的な知識を身につけ、

<p>地域の企業、NPO、行政と連携しながら組織的に問題に取り組む力を養う。さらに、調査や実験など生活を科学的に分析できる力を身につけ、課題を解決する力を養う。また、演習などの実践的な学習やインターンシップなどの課題解決学習（PBL）を通じて、プロジェクトマネジメント、チームワーク、コミュニケーション能力を習得する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/u.html)</p>
<p>(概要) 都市生活学科へ入学する学生には、次の資質をもっていることを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・技能 市民性を養うために、幅広い教養と基礎的な知識・技能を身につけていること。 2. 思考力・判断力・表現力 生活を科学的にとらえ、時代の変化に伴う社会のあり方について考えられること。 3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 他者と協働して質の高い生活を実践できること。

<p>学部等名 人間科学部 食物栄養学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/pdf/study_purpose_u2024.pdf)</p>
<p>(概要) 本学の建学の精神であるキリスト教の愛の精神と人間諸科学を基本とした教育を通じて、他者への思いやりの心を持って社会へ貢献することができる人材を育成すること、および社会科学、自然科学という複合的な視点から、「人間とは何か」、「よりよく生きるためにはどうすべきか」を探求し、よりよい方策を提案し、「健康で人間らしく質の高い生活」の実現と継承に資する人材の育成を目的とする。 情報化の進んだ社会における人間の行動に関する知識をもとに、傷病者に対する療養のための栄養指導、健康保持増進のための栄養カウンセリング、特定多数の人々に対応する給食経営管理等を行う管理栄養士の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/n.html)</p>
<p>(概要) 食物栄養学科では、情報化社会における人間の行動に関する知識をもとに、傷病者に対する療養のための栄養指導、健康保持増進のための栄養カウンセリング、特定多数の人々に対応する給食経営管理等を行う管理栄養士を養成する。そのために、卒業時まで次の能力を養成した上で学士（人間科学）の学位を授与する方針である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 社会システムや人間の生活行動の幅広い理解のもとに、健康、栄養状態、食行動、食品、食環境などに関する情報を収集・分析し、これらを総合的に評価・判定できる。 2. 汎用的技能 対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価ができ、なおかつ栄養、安全、経済、嗜好に配慮する総合的なマネジメント能力を身につけている。 管理栄養士に求められるプレゼンテーションおよびコミュニケーションの能力を身につけている。 3. 態度・志向性 管理栄養士の役割を理解し、個人または集団に必要なマネジメント能力を身につけ、社会に貢献できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/n.html)</p>
<p>(概要) 食物栄養学科では、管理栄養士学校指定規則に基づき、次の9領域を柱とする科目を準備し、学年進行に合わせて、各領域の知識や技能を講義・実験・実習により修得し、臨地実習により実践力を身につけられるようにカリキュラムを編成している。これらの教育課</p>

<p>程編成・実施の方針は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「社会・環境と健康」では、人の生（生きる）を衛る学問、すなわち公衆衛生学を学び、広い視野で健康をとらえるとともに科学的評価の方法を修得する。 2. 「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」では、人体の構造や機能を系統的に理解すると同時に、主要疾患の成因、病態、診断、治療などを理解する。 3. 「食べ物と健康」では、食品の各種成分を理解する。また、食品の生産から、加工・調理を経て、人に摂取されるまでの過程について学び、人体に対しての栄養面や安全面への影響や評価法を理解する。 4. 「基礎栄養学」では、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解し、エネルギー、栄養素の代謝とその生理的意義を理解する。 5. 「応用栄養学」では、各ライフステージにおける栄養状態や心身機能の特徴に応じた栄養管理の考え方を理解する。 6. 「栄養教育論」では、健康、栄養状態、食行動、食環境等の判定・評価に基づき、栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントする能力を養う。 7. 「臨床栄養学」では、傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて適切な栄養管理を行うために、栄養ケアプランの作成・実施・評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について修得する。 8. 「公衆栄養学」では、地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く情報を収集・分析し、疾病予防や健康増進のための公衆栄養プログラムを計画・実施・評価する能力を養う。 9. 「給食経営管理論」では、給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面・安全面・経済面全般のマネジメントを行う能力を養う。
--

<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/n.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>食物栄養学科へ入学する学生には、次の資質をもっていることを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・技能 食と栄養、健康に関する科目に興味を持つこと。 2. 思考力・判断力・表現力 大学での学びにおいて、管理栄養士に求められる技能としてプレゼンテーションおよびコミュニケーション能力を身につける。これらの能力の基礎となる、論理的思考力、理解力があること。 3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 食に関心を持ち、将来個人や集団（地域）の健康の維持・増進を食生活から支えることに意欲をもつこと。

<p>学部等名 人間科学部 ファッション・ハウジングデザイン学科</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/pdf/study_purpose_u2024.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学の建学の精神であるキリスト教の愛の精神と人間諸科学を基本とした教育を通じて、他者への思いやりの心を持って社会へ貢献することができる人材を育成すること、および社会科学、自然科学という複合的な視点から、「人間とは何か」、「よりよく生きるためにはどうすべきか」を探求し、よりよい方策を提案し、「健康で人間らしく質の高い生活」の実現と継承に資する人材の育成を目的とする。</p> <p>ライフスタイルに関するデザインの専門知識・技術と同時に、人間科学的・生活学的な視点と深い教養に根差し、調和のとれた生活や地域貢献に資する具体的で創造的なデザインを提案できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/fh.html)</p>

<p>(概要)</p> <p>ファッション・ハウジングデザイン学科では、身体とそれを取り巻く衣服や身近な空間について、デザインや生活文化の視点から教育・研究することにより、質の高いライフスタイルを創造・提案できる人材を養成する。具体的には、下記の能力を育成した上で学士（人間科学）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) ファッションとハウジングデザインの背景としての生活文化を理解している。 (2) 身近な生活におけるデザインの役割（造形性、機能性、審美性、経済性、関係性）に関する幅広い知識を身につけている。 2. 汎用的技能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 身体を取り巻く衣・住空間のデザイン事例について情報収集し、特徴やイメージを読み取り、分析することができる。 (2) ファッションとハウジングデザインを専門の言葉で表現し、コミュニケーション能力をもつ。 (3) 図、画像、文章、立体作品等を用いて、独自の発想や感性に基づく具体的なデザインを表現することができる。 3. 態度・志向性 <p>ユーザー、生活者である女性として、地域に根差した生活文化の形成、新たなデザインやライフスタイル提案により、社会に貢献できる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/fh.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>ファッション・ハウジングデザイン学科のカリキュラムは、「プロデュース」、「デザイン」や「ライフ」に関する基礎的な科目と「ゼミ総合」科目群、さらに「ファッションと自己形成」のⅠ群と「プロデュース」のⅡ群、および学年進行とともにそれぞれの分野の専門性を高める科目群から構成されている。これらの教育課程編成・実践の方針は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「基礎演習」により、ファッションとライフスタイルを題材にしてコミュニケーションリテラシーの基礎を身につける。 2. 「ファッションと自己形成」のⅠ群では、衣服を着用する人間の身体と心に重点をおき、ファッションを通して女性として美しく豊かに生きるための知識と方法を学ぶ。 3. 「プロデュース」のⅡ群では、ファッションを媒体として社会における要求に対応できるプロデュース能力を身につける。 4. 「ライフ」分野では、ライフスタイルや地域文化を視野に入れ、おしゃれなファッション生活を提案できる知識と技術を習得する。 5. 「ウェルネス」分野では、内面の感性としての美容と健康における知識や技術を身につける。 6. 「デザイン」分野では、被服の構成、素材、管理までの一連の知識やデジタルデザイン技能を学ぶ。 7. 「インテリア」分野では、インテリアの歴史、コーディネート、デザインに関する知識や技能を習得する。 8. 4年間の集大成である卒業研究に向けて、3年次の「デザイン特別演習」で先行研究を参考に研究テーマを決め、4年次の「卒業研究」には、卒業論文または卒業制作のどちらかの形式で取り組む。
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/fh.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>ファッション・ハウジングデザイン学科へ入学する学生には、次の資質をもっていることを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・技能 <p>日常生活のなかで、身近なファッションや住まい・インテリアなどのデザインに関し</p>

<p>て興味をもち、その創作技法を修得するための基礎的な知識をもつこと。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力 よりよい生活の在り方に関して、広い視野から柔軟な思考や判断ができ、豊かな想像力と表現力を磨くことに意欲をもつこと。</p> <p>3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 ファッションや住まい・インテリアの学びから他者と協働し、社会の発展のために積極的に関与することができる。</p>

<p>学部等名 教育学部 教育学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/pdf/study_purpose_u2024.pdf)</p>
<p>(概要) 本学の建学の精神であるキリスト教の愛の精神と教育・保育に関連する学問の教育によって、教育に対する使命感を育成し、学校教育における高度な専門的知識や社会における子育て支援のスキルを習得させ、学校で教員として活躍できる人材、家庭や地域社会や教育関連企業で教育活動及び子育て支援を推進できる人材の育成を目的とする。 教育学・保育学関係の知識と実践的技能を習得し、幼児教育から中等教育までの発達の段階や特性を踏まえ、多様な教育的ニーズに応じ、そのニーズにふさわしい指導方法や学習スタイルを選択し、たえず工夫して実践できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/t.html)</p>
<p>(概要) 教育学科では、本学キリスト教の「愛の精神」に基づき、他者への思いやりの心をもって社会に貢献する人材の育成、また、リベラルアーツを基本とした教養豊かな人材の育成を目標とする。そのために、卒業時までには次の能力を養成した上で学士の学位を授与する方針である。</p> <p>1. 知識・理解 保育学・教育学の理論や実践を踏まえながら、学校、地域、家庭の子育てや保育・教育の課題を題材にし、生きて働く知識を身につける。地域社会、共生社会、グローバル化などの広い視点から子育てや保育・教育の問題を理解し分析できる。</p> <p>2. 汎用的技能 保育・教育と学びの現場の実態を正確に把握し、主体的で対話的な学びの視点から学習過程を改善することができる。外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、他者に配慮しながら、具体的に身近な話題についての理解や表現、情報交換ができるコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>3. 態度・志向性 社会の様々な問題を保育・教育の現場に立脚した視点から分析し、解決策を提案できる。自ら学び続ける中で省察し、保育・教育の専門家として責任感を持ち、教育活動に積極的に関与する姿勢を身につける。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/t.html)</p>
<p>(概要) 教育学科では、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭、特別支援学校教諭の免許状が取得できる教職課程と保育士資格が取得できる指定保育士養成施設を置き、校種の垣根を越え幼児教育から中等教育までの発達段階を見通し、グローバル化時代に対応し、一人一人の保育・教育ニーズに応えることができる人材を育成する目的のもとにカリキュラムを編成している。これらの教育課程編成・実施の方針は次のとおりである。</p> <p>1. 教養教育科目においては、保育学・教育学の専門領域について高度専門職業人として、生涯を通じて学び続けるための基礎的な思考や方法論を身につける。基礎演習等の少人数で実施する科目では、教員・学生相互間の議論を活発化し、課題を発見し、解決に向けて協働的に学ぶ。</p>

2. 教職コア科目においては、校種を越えて学ぶ必要がある教職科目を必修科目として履修し、学生が取得する免許・資格に応じて必要な科目を選択する。
3. 教職実践科目においては、取得する免許・資格に応じた教育実習や保育実習及びその指導に関わる科目を履修する。また、こうした実習に向けて、学校教育現場と関わるための学外体験活動を通して、学習段階に応じて、履修科目と教育現場での実践の効果的な往還ができる。
4. 教職発展科目においては、教育実習や保育実習を終えた後、自らの課題に応じて、より高度な教育実践力を育成する。
5. 専修の専門科目として、幼児教育科目（保育教育系列、幼児教育系列）と学校教育科目（小学校教育系列、英語教育系列）という科目群から進路に応じて、免許・資格に必要な科目を履修する。
6. 特別支援教育科目においては、幼稚園教諭や小学校教諭の免許課程を基礎としながら、多様な障害を持つ子供への理解及び指導方法について理解を深める。知的障害、肢体不自由、病弱児の障害、重複障害といった障害の種類に対応して専門的に学びを深めたのち、教育現場での実践へと展開する。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/t.html>）

（概要）

教育学科に入学する学生には、次の資質をもっていることを期待する。

1. 知識・技能
保育・教育に関わる学びの基礎となる知識と必要な情報を見出すことのできる文章読解力をもつこと。
2. 思考力・判断力・表現力
子どもの成長・発達に加えて子どもを取り巻く環境と社会に関心を持ち、子どもおよび保育・教育に関わる問題について、専門的な知識・技能を求めて自ら学び考え、人に伝えようとする姿勢をもつこと。
3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度
保育・教育への熱意をもちながら、コミュニケーション能力を生かして人と協働し、積極的に社会に貢献しようとする志をもつこと。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ホームページに掲載し公表している。

ホーム>神戸松蔭について>公開情報

（公開情報 URL <https://www.shoin.ac.jp/guide/publication.html>）

「2. 教育上の基本組織に関すること」に以下の項目を掲載。

■組織図（大学・大学院の学科・専攻の編成、教学組織と管理・事務組織など）

大学・大学院の学科・専攻の編成及び教学組織・事務組織の編成を系統図で表すとともに、定員、学長・副学長をはじめとする役職者氏名、各学科等の所属教員の氏名を掲載している。

→リンク先 URL <https://www.shoin.ac.jp/guide/outline/organization.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
文学部	—	12人	9人	3人	0人	0人	24人
人間科学部	—	13人	13人	9人	0人	0人	35人
教育学部	—	12人	9人	1人	0人	0人	22人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
0人				202人			202人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.acoffice.jp/kswhp/KgApp					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
2023年度は学生による授業評価アンケートを前期及び後期の2回実施した。また、授業評価アンケートに基づき、授業に関する自己点検・評価を前期・後期の2回実施した。F D研修会は外部講師による「大学教育におけるPBLの開発に向けて」、学内教員による「ChatGPTの基礎」、「学生の主体的な学びを促す動画教材」、「課題解決型授業から課題解決授業へ」、「学生支援に関する個人情報取り扱いに関する留意点について」の5回実施した。 FD WEEK（授業公開週間）を後期の授業期間（11/24～12/7）に実施した。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	110人	40人	36.4%	590人	297人	50.3%	0人	0人
人間科学部	290人	122人	42.1%	1,160人	735人	63.4%	0人	4人
教育学部	60人	24人	40.0%	420人	191人	45.5%	0人	0人
合計	460人	186人	40.4%	2,170人	1,223人	56.4%	0人	4人
(備考) 編入学定員：若干名 文学部、人間科学部（心理学科、都市生活学科、ファッション・ハウジングデザイン学科）								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	161人 (100%)	1人 (0.6%)	136人 (84.5%)	24人 (14.9%)
人間科学部	262人 (100%)	5人 (1.9%)	241人 (92.0%)	16人 (6.1%)
教育学部	104人 (100%)	3人 (2.9%)	91人 (87.5%)	10人 (9.6%)
合計	527人 (100%)	9人 (1.7%)	468人 (88.8%)	50人 (9.5%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)
(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	185人 (100%)	146人 (78.9%)	19人 (10.3%)	20人 (10.8%)	0人 (0%)
人間科学部	291人 (100%)	245人 (84.2%)	20人 (6.9%)	26人 (8.9%)	0人 (0%)
教育学科	108人 (100%)	102人 (94.4%)	3人 (2.8%)	3人 (2.8%)	0人 (0%)
合計	584人 (100%)	493人 (84.4%)	42人 (7.2%)	49人 (8.4%)	0人 (0%)
(備考) 中途退学の理由として、精神的理由と経済上の理由が増えている。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の実施・編成の方針に基づいて学科の教育課程に開設する授業科目については、全科目のシラバス（授業計画、授業方法及び内容、成績評価および単位認定の方法及び基準）を作成し、学内のポータルサイト及び大学ホームページに公開している。 年間授業スケジュール、学事日程を公表している。学生には、3月20日頃に新年度のシラバスを公開し、履修ガイダンスまでにシラバスを確認したうえで、履修科目を決定し、履修登録の準備を行うよう指導している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)	<ul style="list-style-type: none"> 本学に4年以上在学し、各学科の課程を修め、所定の単位を124単位以上修得した者について、教授会で卒業を判定し、学位を授与する。 学位授与の方針は、カリキュラムマップによりカリキュラムに反映し、学科の授業科目の到達目標設定の指標とするとともに、単位認定の基準となっている。 			
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	英語学科	124単位	有	44単位
	日本語日文化学科	124単位	有	44単位
人間科学部	心理学科	124単位	有	44単位
	都市生活学科	124単位	有	44単位
	食物栄養学科	124単位	有	48単位
	ファッション・デザイン学科	124単位	有	44単位
教育学部	教育学科	124単位	有	48単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：履修規程を公式サイトに公開 https://www.shoin.ac.jp/academics/pdf/risyukitei.pdf		

学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法：アセスメントポリシーを公式サイトに公開 https://www.shoin.ac.jp/guide/pdf/assessment_policy2019.pdf
----------------------------	---

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：大学ホームページに掲載し公表している。 https://www.shoin.ac.jp/guide/publication.html</p> <p>「7. 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること」に以下の項目を掲載。</p> <p>■施設紹介 キャンパスの建物配置図のほか、コンピュータ室・学生食堂等の主な施設を写真付きで紹介している。 https://www.shoin.ac.jp/guide/campus/map/index.html</p> <p>■学生生活のサポート 学生生活を送るにあたっての基本情報（学生証や学生専用ポータルサイトの説明、住所変更ほか各種届出方法 等）のほか、学生の健康・安全に対する大学の体制、奨学金制度等を掲載している。 https://www.shoin.ac.jp/life/index.html</p> <p>■クラブ課外活動 本学のクラブ・同好会のほか、学内で組織しているボランティアグループや学生自治会の活動を掲載し、参加希望の在學生に情報提供するとともに、受験生・保護者なども学外の方にも紹介している。 https://www.shoin.ac.jp/plus_s/campuslife/club/</p> <p>■大学までのアクセス 大学周辺の主要都市（神戸、大阪など）からの公共交通機関でのアクセス方法や最寄駅からの経路図のほか、学生通学用バスの時刻表を掲載している。 https://www.shoin.ac.jp/guide/campus/access/index.html</p>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金※	その他	備考（任意記載事項）
文学部	英語学科	840,000円	200,000円	270,000円	その他の内訳： 施設設備費、教育充実費
	日本語日本文化 学科	830,000円	200,000円	260,000円	その他の内訳： 施設設備費、教育充実費
人間科学部	心理学科	830,000円	200,000円	260,000円	その他の内訳： 施設設備費、教育充実費
	都市生活学科	(1,2年次) 820,000円	200,000円	260,000円	その他の内訳： 施設設備費、教育充実費
		(3,4年次) 830,000円	—円		
	食物栄養学科	(1,2年次) 880,000円	200,000円	440,000円	その他の内訳： 施設設備費、教育充実費、 実習費
(3,4年次) 890,000円		—円			
	ファッション・ハウジングデザイン 学科	850,000円	200,000円	290,000円	その他の内訳： 施設設備費、教育充実費
教育学部	教育学科	850,000円	200,000円	320,000円	その他の内訳： 施設設備費、教育充実費、 実習費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none">授業以外での外国語学習をサポートする取り組みとして、『イングリッシュアイランド』『外国語応援サロン』等を設置し、学修の支援をおこなっている。 https://www.shoin.ac.jp/academics/action/support.html入学試験の成績において一定の条件を満たした者に、「夢・未来サポート特待生奨学金 100（夢サポ 100）」や「夢・未来サポート特待生奨学金 50（夢サポ 50）」などの給付奨学金制度を設け学生の修学支援を行っている。 https://www.shoin.ac.jp/admission/expenses/scholarship.html英語学科のカリキュラム内にある留学の支援として Semester 留学奨学金、1 年留学奨学金制度を設けている。 https://www.shoin.ac.jp/admission/expenses/scholarship.html障害や慢性疾患等がある学生に対しては、学生支援室を設置し、学生からの相談や支援に関する教職員からの相談に対応し、修学及び学生生活の支援をおこなっている。 https://www.shoin.ac.jp/life/support2/student_support.html
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>2 年生後期より就職ガイダンスを実施。初回ガイダンスで適性検査を受験して本人の適性に合致する組織風土を把握。3 年生後期にかけて毎月 1 回、民間企業・公務員志望の学生に対してガイダンスを実施するとともに個別面談を実施。学生の志向や適性に合わせた進路選択ができるよう支援をしている。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>学生の心身の健康等については、以下の取り組みをおこなっている。</p> <ul style="list-style-type: none">保健室：心身の健康管理、看護師 2 名が常駐 https://www.shoin.ac.jp/life/support2/health.html学生相談室：様々な悩みへの相談対応、公認心理師（臨床心理士）2～3 名が常駐 https://www.shoin.ac.jp/life/support2/consultation.html学生支援室：障がい学生支援、社会福祉士（精神保健福祉士）2 名が常駐 https://www.shoin.ac.jp/life/support2/student_support.htmlキャンパスハラスメント相談窓口：人権が尊重されるキャンパスを目指すために https://www.shoin.ac.jp/life/support2/teller.html

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：大学ホームページに掲載し公表している。 https://www.shoin.ac.jp/guide/publication.html</p> <p>学校教育法施行規則第 172 条の 2 の各号に定められた教育研究活動等の情報（項目番号 1～9）、事業報告書及び財務情報（項目番号 10）、学校教育法第 109 条に基づく自己点検・評価（項目番号 11）、設置届出書及び履行状況調査報告書（項目番号 12）を掲載し公表している。</p>
